会　議　録

【事業番号１０　市民協働と交流のつどい開催費】

１　会議名　　平成 29 年度第３回市民行政評価委員会
２　日　時　　平成 29 年 10 月 11 日（水）午後４時 00 分～４時 30 分
３　場　所　　議会３委員会室
４　出席者
（１）市民行政評価委員会委員
　　岡田委員長、林委員、山崎委員、寺田委員、大家委員
　　喜成委員、西山委員、藤田委員、安田委員
（２）事業担当課（市民協働推進課）
　　南課長　橋爪係長
（３）事　務　局（行政経営課）
　　津田課長、松本課長補佐、島崎係長、古谷主査

５　審議内容
評 価 委 員　：　イベントの広報はどのように行っているか。（事前質問）
事業担当課　：　新聞広報、チラシ、テレビ、金沢市 HP、Facebook、出店団体による口コミなどである。
評 価 委 員　：　マッチングの実績等、これまでの成果は。（事前質問）
事業担当課　：　地域団体や市民活動団体の活動内容・成果を広く市民に知ってもらう機会はあまりないため、広報という意味では非常に良い機会となっている。マッチングの実績については特に集計を取っていないが、このイベントに参加した団体のアンケートから、団体同士の交流が図られたという回答を頂いている。
評 価 委 員　：　事業に参加・出展する団体の募集方法は。（事前質問）
事業担当課　：　協働のまちづくりチャレンジ事業や協働登録団体等、これまでに市民協働推進課の事業に携わってきた団体への参加依頼や、協働をすすめる市民会議委員の所属団体への参加依頼を行っている。
評 価 委 員　：　当該「市民×学生　協働と交流のつどい２０１６」の昨年度の周知方法は。（事前質問）
事業担当課　：　新聞広報、チラシ、金沢市 HP、Facebook、出店団体による口コミで行っている。なお、今年は TV 番組での広報活動も行った。先日本イベントを開催したが、来場者は 2,000 人と多数であった。同時期に工芸フェスタ等のイベントも開催されていたため、来場者が増えたものと思われる。

評 価 委 員 ： 今後も他のイベントに併せて実施していくのか。単独での実施では費用対効果が悪いので、今回のように抱き合わせで実施したほうが良い。

事業担当課 ： 来年も同時期に開催できれば良いと考えている。

評 価 委 員 ： このイベントに参加できるのは、チャレンジ事業等に参加している団体のみか。また、チャレンジ事業で採択された団体の出展に際し、PR 内容が採択された内容と異なっていても問題ないか。

事業担当課 ： 参加できる団体に制約はない。特にチャレンジ事業に限定するものではなく、広く団体の PR を行っている。

評 価 委 員 ： 他市でも市民協働の活動をしていると思うが、先進的な市との比較はしているか。

事業担当課 ： 市民協働サポートセンターの開設を見据え、先進市を研究して次につなげていきたい。

評 価 委 員 ： 「地域団体の活動をパネル展示」とあるが、展示だけではなく、ステージ上で発表するほうが多くの方の耳に入ると思う。

事業担当課 ： 平成 28 年度は屋内での開催であったため、グループワークショップという形での発表となった。平成 29 年度は屋外でイベントを開催したため、ワークショップは行っていない。一方、ファシリテーター養成講座は別の事業で継続しているので、今後も発展させていきたい。

評 価 委 員 ： イベントの詳細をみると、学生の関わりが少ないように思える。

事業担当課 ： ステージプログラムで、よさこいや、ダンスを披露していただいた。学生に出展という形は難しいかと思う。何らかの形で参加していただければと考えている。

評 価 委 員 ： 主催者が「協働をすすめる市民会議」とあるが、学生もメンバーに入っているか。新陳代謝は図られているのか。

事業担当課 ： 人数は 25 名で任期２年であり、新陳代謝は図られている。
学生も入っている。

評 価 委 員 ： 事業費の内訳は。

事業担当課 ： 会場設営費と広報費が主である。

評 価 委 員 ： 開催場所を今年は変えたとあるが、イベントの目的は２通りあり、市民に広く知ってもらうことと、団体間のマッチングを図ることとある。もしマッチングを重視するのであれば、屋外で行うよりも交流館で実施した方がよいかもしれない。

事業担当課 ： ご指摘を参考にして次につなげていきたい。